

[成果情報名]福島県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の栽培法

[要約]「天のつぶ」は疎植栽培が可能で、窒素施肥量は基肥 0.6kg/a、幼穂形成期 0.2kg/a で玄米タンパク含量が 6.4 以下となる。品質面から見た刈取適期は出穂後積算気温 1000 ～ 1200 ℃で品質が良い。「天のつぶ」の生育目標値を作成して生産現場の技術支援を行う。

[キーワード]水稲、天のつぶ、栽培法

[担当]福島県農業総合センター作物園芸部*・会津地域研究所**・浜地域研究所***

[代表連絡先]電話 024-958-1722* 0242-82-4411 ** 0244-35-2633***

[区分]東北農業・作物(稲栽培)

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

福島県オリジナル水稲品種「天のつぶ」は収量が安定している良食味品種として平成 22 年度に水稲奨励品種として登録されている。

この「天のつぶ」の収量と品質を確保して良食味となる栽培法について検討し、生育目標値を作成して生産現場の技術支援を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 栽植密度の低い疎植(株間 20 cm程度)は、通常(株間 16 cm)に比べ、茎数、穂数は少ないが 1 穂粒数が 10 %以上多くなり、通常と同程度の収量を確保することが出来る(図 1)。
2. 窒素施肥量を多くすると収量は多くなるが、玄米タンパク質含有率は高くなる。また、幼穂形成期と減数分裂期の追肥を比較すると、収量は変わらないが、減数分裂期の追肥ではタンパク質含有率が高い(図 2)。このため、a 当たり窒素施肥量は基肥に 0.6kg、幼穂形成期に 0.2kg 施用すると玄米タンパク質含有率が目標値以下となり良食味が確保される。
3. 「天のつぶ」は米検査等級が 1 等となる刈取期間は広いが、刈取適期は青未熟粒が減少する出穂後積算気温 1000 ℃から白未熟粒等の増加が少ない 1200 ℃の範囲とする(図 3)。
4. 収量目標を会津は 65 ～ 70kg/a、中通りと浜通りは 60 ～ 63kg/a として、検査等級は 1 等で玄米タンパク質含有率 6.4 %以下の良質・良食味を確保する生育目標値を作成して(表 1)、生産現場の技術支援を行う。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象 福島県の水稲生産者
2. 福島県内平坦部(標高 300 m以下)、作付目標面積は 6000ha(2013 年)

[具体的データ]

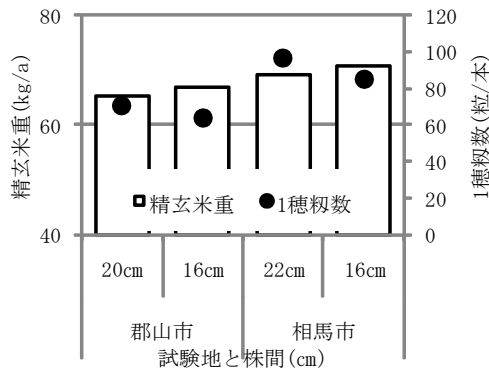


図1 株間と収量及び1穂粒数
注) 調査年 2011年、ふるい目 1.8mm

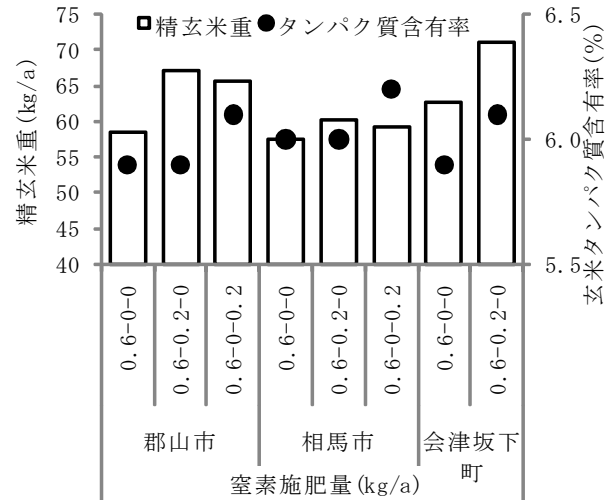


図2 窒素施肥体系と収量及び玄米タンパク質含有率
注) 横軸は基肥-幼穂形成期追肥-減数分裂期追肥の窒素施肥量(kg/a)
玄米タンパク質含有率は水分15%換算。
調査年は郡山市と相馬市は2010年、会津坂下町は2011年。

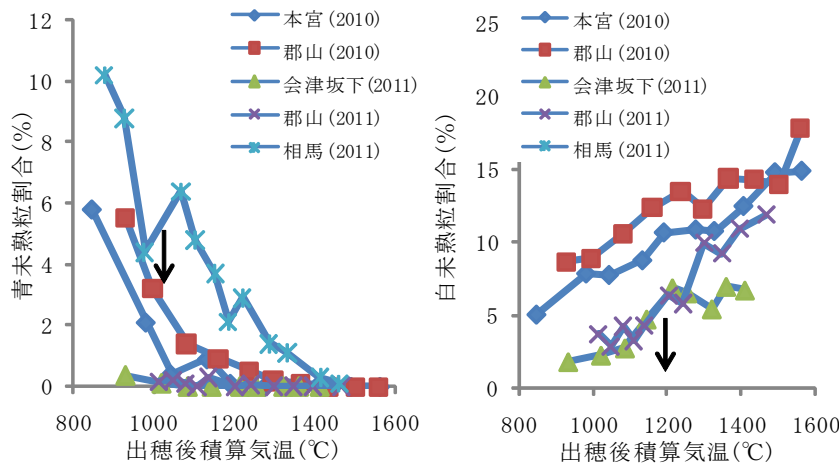


図3 積算温度と未熟粒割合
注) 品質判定はサタケ社(RGQL1A)又はKett社(RN-300)。

表1 「天のつぶ」生育目標値

項目	目標値			
	会津	中通り	浜通り	
幼穂形成期	茎数(本/m ²)	460~520	520~560	600~650
	葉色(SPAD502値)	38~40	38~40	40
出穂期	止葉の葉色(SPAD502値)	34以下	34以下	34以下
	収量(kg/a)	65~70	60~63	60~63
	登熟歩合(%)	87~90	85~90	85~90
成熟期・収穫期	検査等級(等)	1等		
	玄米タンパク質含有率(%)	6.4以下		
	穂数(本/m ²)	420~470	450~480	400~450
	粒数(万粒/m ²)	3.2~3.5	3.0~3.2	3.0~3.2

注) 幼穂形成期の目標は株間16cmで移植。玄米タンパク質含有率は水分15%換算。
水稲有望系統における生育診断技術の確立(2011年)
及び奨励品種決定調査等(1999~2003年、2008~2009年)の結果から。

[その他]

(福島県)

研究課題名：水稲有望系統における生育診断技術の確立

予算区分：県単(2011~2014年度)

研究期間：2011年

研究担当者：藤田智博・肥田野善隆・朽木靖之・鈴木幸雄・新妻和敏・江上宗信・濱名健雄